

平成24年度 事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人コロンブスアカデミー

1 事業活動方針

不登校ないしひきこもりなどを経験したため、またはその状況を継続しているために、一般的な就職などによる社会的自立が困難になると予想される、または現実に困難になっている青少年（以下 青少年）に対して、それらの状況から脱却する機会を提供し、かつ社会的自立を援助する活動として、社会参加上、重要な共同生活及び模擬的な就業体験の場を提供することに関する事業を行い、各人の個性に応じた社会的自立への機会を獲得することに寄与することを目的に活動を展開する。

今年度も引き続き子育て期から学齢期～思春期～青年期までの切れ目のない支援、それぞれの発達特性に応じたサポートを心がけて一つ一つの活動に取り組む。これまで培ってきた団体独自のノウハウに加え、K2グループ内の法人との連携はもとより、さまざまな地域の資源を活かし、一人ひとりに自立への段階的な支援を多面的な視点から行った。

若者支援の現場から見えてくるものを通して、やはり学齢期・思春期の対応が重要だという認識を深め、原点に立ち返り、不登校支援に力を注ぐため、不登校セミナーを開催した。「先送りしない、見過ごさない、過剰反応しない」という現場の実践の中から感じていることを保護者に対して発信していった。セミナーには保護者だけでなく、磯子区長をはじめ行政の職員、学校教員、地域の方、学生なども参加し、啓蒙活動としても意味をもっていた。

また、新規事業の金沢区青少年の地域活動拠点が4月27日に開所し、よこはま南部ユースプラザの連携のもと、運営を行い、居場所の提供を行った。本事業を通じて、近隣の小中学生が通ってくる中で、学齢期での支援の重要性や健全育成にとどまらない個別の対応の必要性を感じた一年であった。フリースペースには多くの子ども達が通ってきて、長期休みにも継続的に通ってきているメンバーの中には複雑な背景をもつ家庭の子が多かった。不登校相談が寄せられたり、近隣の学校との情報共有の中でも金沢区にも不登校支援の潜在的なニーズがあると感じている。

よこはま南部ユースプラザの事業の中でも、これまでに引き続き、定時制高校や総合高校・県立高校へのアウトリーチを行い、中途退学する前に相談を受けたり、情報提供を行うなど高校生への関わりを深め、具体的に支援につながるような関わりを行った。この活動を通じて、改めて早期に出会うことの重要性を感じている。

子育て支援の現場では、法人の姿勢や活動について理解を求めよう働きかけを行ってきた。まだ種まきの状態で、不登校やひきこもりなど生きづらさを抱えた子どもや若者の支援について、その活動に支え手が必要なことについて、少しずつ理解者が出てきている。学童クラブでは、個別支援級の児童の受け入れを行い、スタッフ一人ひとりがその子に合わせた支援の形を考えながら日々の保育に従事していた。きょうだい児の受け入れや緊急時の対応など働く親への支援・子ども達が安心安全に過ごせる場づくりにも力を注いだ。さまざまなケースに対応するにあたって、スタッフのスキルアップのため、NPO法人あっとほーむ（都筑区）やはずのみ学童クラブ（金沢区）での保育体験など外部での研修も行った。また、ひきこもっていた若者が学童クラブのスタッフとして生き生きと働いていること、つまり「支援の循環」の実践に対して、「かながわ子ども・子育て支援奨励賞」をいただき、初めて子育て支援の分野で表彰を受けた。

自立援助ホームの開設に向けて、横浜市や児童相談所など関係機関と連携しながら、事前の内覧会の開催や個別の見学の受け入れ、積極的に活動紹介、事業説明に赴くなど準備を進めて行った。これまで以上に児童養護施設や児童自立支援施設、他の自立援助ホームとの顔の見える関係を作っていけるように段取りをしていった。

磯子区発達障害児・者地域支援ネットワーク連絡会（はっちネット）や磯子区NPO連絡会、南部地域若者支援連絡会にも積極的に参加し、地域の関係機関や団体との交流を深め、また活動紹介・ケース検討などを通して、お互いに具体的に協力し合う関係作りに努めた。また、今年度は視察見学の依頼も多く、南部学校教育事務所や大学生等、現場を知って頂くために受け入れを行った。

2012年7月には神奈川県からの指定を受け、2013年3月1日には認定NPO法人として認められ、新しいスタートを切ることとなった。今年度、支え手を増やすための具体的な努力を心がけていたが、十分な広報ができなかったことが反省点として挙げられる。活動を持続継続していくためにも具体的な形を提示していかなければならない。次年度につながる課題となっている。

2 事業内容

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 社会参加基礎訓練等の場を提供するための寮施設兼生活指導施設の運営

①横浜共同生活舎（ハマコロ）での活動

- ・個別プログラムによりそれぞれの生活目標を掲げ、具体的な自立へのサポートを行った。
- ・起床、食事、洗濯、清掃等日常生活の基礎を体得できるような関わりを行った。
- ・共同生活を通じて、社会生活のルール、コミュニケーション等、社会性を身につけられるように努める。また自己規律、責任感の醸成に留意しながらサポートを行った。
- ・自分のことは自分で決めるという習慣を身につけ、自立心を養うことを心がけていく。
- ・アルバイト等、自活のための努力を支え、働き続けることへのフォローアップを行った。
- ・高校卒業資格の取得や大学への通学のサポート、自動車運転免許など必要な資格・免許の取得をフォローアップを行った。
- ・2週間・1ヶ月の体験合宿の受け入れを実施。
- ・定期的に季節のイベントを実施。

日時	通年
場所	横浜市磯子区中浜町
主な従事者人員	4名
対象者	青少年（長期3ヵ月新規2名、継続6名、体験1ヵ月3名、2週間3名）
支出額	12,004,737円

②自立援助ホーム 開設準備

(2) 青少年とその保護者などに対する相談・支援

①よこはま南部ユースプラザ

- ・相談窓口（電話、インターネット、来所）を開設し、当事者や保護者の第一義的な総合相談を受ける相談室の運営を行った。
- ・ひきこもり状態からの回復期にある青少年の居場所の運営。
- ・社会体験・就労体験のプログラム、就労支援セミナーの実施。
- ・横浜市内5つの区の関係機関、区役所との連携及びネットワークづくりのため、南部地域若者支援連絡会を開催。
- ・3機関連絡会等への参加を通じて、他機関との連携を深める。

日時	月曜日～木曜日	11時～19時
	金曜日	11時～21時
	土曜日	セミナー・説明会のみ開所
場所	横浜市磯子区西町12番1号 根岸駅前第二共同ビル2階 206・208号	

主な従事者人員 8名
対象者 青少年および保護者、関係者
支出額 23,638,886円

②メンタルフレンド

- ・ひきこもり状態にあり、自分では出て来られない、家族だけでは煮詰まった関係になっている家庭にスタッフが訪問し、個別のケースに具体的に対応を行った。
- ・次のステップへとつながるようにチームで見通しを立て、支援プランを作成し、状況によって軌道修正しながら具体的な支援を行った。時には家庭への訪問だけでなく、関係機関などと密に連絡を取り合い、必要に応じて現地にも赴き、共に本人や両親を支える体制作りをしていった。また、チーム体制で支援を進めることで訪問するスタッフの心理的なサポートを心がけた。

日時 通年
場所 コロンブスアカデミー事務局
主な従事者人員 4名
対象者 ひきこもり状態にある青少年やその家族
支出額 166,800円

③有料相談

- ・個別に時間をとって、保護者や本人から話を聞き、今後の方針を考え、現状から一歩踏み出して前に進めるように有料相談を行い、必要に応じて、次のステップへとつないでいった。

日時 通年
場所 コロンブスアカデミー事務局
主な従事者人員 2名
対象者 不登校、ひきこもり状態にある青少年とその家族
支出額 なし

(3) 青少年の自立に関する情報提供

①団体の活動の情報発信

- ・ホームページやブログの定期的な更新作業を行い、内容の充実を図るよう努める。
- ・年2回、KIAORAを発行し、団体の活動内容を広く知ってもらうための取り組みを行う。KIAORAはホームページでも閲覧できるようにし、また、地域の各活動場所に設置。活動を知ってもらうための資料として有効活用していった。

日時 随時
会報の発行 2012年9月・2013年3月
場所 コロンブスアカデミー事務局
主な従事者人員 2名
対象者 正会員、不登校、ひきこもり状態にある青少年とその家族、地域の関係機関・関係団体など
支出額 41,390円

②ひきこもり等青少年自立支援事業

- ・神奈川県青少年課の委託事業として実施。
- ・通いでプログラムに参加できる機会を提供することで、共同生活には参加しにくい人でも日中の活動に参加し、外に出るきっかけづくりにもしてもらうため、10回のワークショップを開催。
- ・ワークショップ終了後もつながっていけるようによこはま南部ユースプラザ等の

登録をして、単発の講座にとどまらない関係作りに努めた。

日時	2012年9月～11月
場所	神奈川県青少年サポートプラザ
主な従事者人員	4名
対象者	ひきこもり状態にある青少年および保護者
支出額	706,077円

(4) 地域で子育てを支える場の提供・運営

①親と子のつどいの広場事業 子育てスポットくすくす

- ・横浜市補助事業として、乳幼児親子が気軽に集える居場所を運営。
- ・乳幼児を抱える親の日常的な悩みを解消し、学べる場やリフレッシュするための場を提供。
- ・参加する親子が参加者としてだけでなく、運営を支える当事者として育ち、ママサポーター、ママボランティアとして参加する人も増えてきたので、次の世代へうまく引き継いでいけるような流れを作っていた。
- ・一時預かり事業も定着し、まだまだ登録者は多くないが、利用回数は増え、相談も寄せられるようになってきた。
- ・日常の活動の様子や今後の予定をこまめにホームページ・ブログから情報発信を行うよう心がけ、活動内容の周知や新規利用者の獲得に努めた。
- ・地域の関係機関・関係団体との連携を深める。今年度は磯子区子育て支援連絡会に加え、初めて区内の子育て支援拠点とつどいの広場が情報交換会を行った。近隣地域の関係団体との顔の見える関係を作ることができた。
地域の保育園との関係が子育て広場の活動だけでなく、学童クラブの活動にも活かされ、ヨコの関係がタテにも広がってきている。

日時	月曜日～金曜日 10時～15時
場所	磯子区東町9-9 2F
主な従事者人数	4名
対象者	乳幼児親子
支出額	8,295,452円

②パパ講座 いもほり

- ・横浜市補助事業で父親も含めた家族で参加できる農業体験のイベントを実施。
- ・地元の岡村のにこまるソーシャルファームで行い、地域への理解や愛着を深める機会となった。ファームのスタッフとも協力しながらイベントの運営を行うことができた。
- ・参加者の対応や作業の手伝いを生徒や研修生が担い、異世代交流の場にもなった。

日時	10月27日(土) 10:00～13:00
場所	磯子区岡村7-1-5
主な従事者人数	4名
対象者	乳幼児親子 24組
支出額	113,266円

③磯子まつりイベント 秋の親子フェスティバル

- ・磯子区補助金を受けて、乳幼児・小学生親子対象のイベントを開催。
- ・発表や縁日、宝探し、工作教室などの催しを行い、地域の親子が楽しめるようなプログラム・居場所の提供を行った。
- ・イベント運営には生徒や研修生も運営側スタッフとして動き、一緒にイベントを作り上げる体験を行うことができた。

日時	10月6日(土) 11:00~15:00
場所	磯子区東町9-9
主な従事者人数	4名
対象者	乳幼児親子 204名
支出額	101,180円

(5) 地域の子どもの居場所の提供・運営

①おーぷんはうすHAMA

- ・商店街の空き店舗を借りて、商店街の方をはじめとする地域の大人と通ってくる子どもとの交流の場、近隣に住む幼児や小・中学生が放課後に自由に立ち寄れる場所として運営。必要としている子どもたちが継続的に安心して通うことのできる場としても、中学に上がった子どもたちや個別支援級の子たちの居場所としても機能していた。
- ・地域のさまざまな世代の人が入りやすい環境を作るように心がけて活動を行った。

日時	月曜日～金曜日 15:00～18:00 9のつく日は休み。
場所	磯子商店街商業協同組合 浜マーケット（磯子区久木町20-4）
主な従事者人員	3名
対象者	地域の小・中学生（登録制）、地域の人たち
支出額	458,610円

②金沢区青少年地域活動拠点

- ・横浜市の補助事業として、地域の中・高校生世代の青少年が安心して気軽に集う場や様々な体験交流の場を提供する事を目的とし、地域に根付いた活動拠点を運営する。
- ・1階フリースペース部分では地域の中高生向けに駄菓子屋販売を行い、定期的にイベントを実施する。
- ・生きづらさを抱える若者を受けとめる場としても機能させる。
- ・よこはま南部ユースプラザとして築いてきた南部地域若者支援連絡会でのネットワークを活かし、近隣の学校や他団体との連携を積極的に図っていく。

日時	火曜日～土曜日 15:00～20:00
場所	横浜市金沢区洲崎町6-2
主な従事者人員	3名
対象者	地域の小～中高生、地域の人たち
支出額	12,911,096円

(6) 放課後児童健全育成のための学童保育の運営

①ぽによぽによ学童クラブ

- ・横浜市在住のおおむね小学1～3年生までの児童で、保護者が仕事や病気、家族の介護のため、放課後に家庭での保育に欠ける児童を預かり、児童が放課後を生き生きと安心して楽しく遊び、学ぶ、豊かな育ちの場を提供。
- ・一人ひとりが第二の家として過ごせるような環境づくりに努め、また学校ではできない体験を多く取り入れることを意識して場づくりを行う。
- ・給食の提供を行うことで、食事の大切さを知り、家庭的な温かい雰囲気を感じられるようにする。
- ・自主事業として、一時保育や緊急対応（日曜日・祝祭日・夜間・宿泊・ねんちょうじの預かりなど）を行い、働く親が困った時に具体的にサポートできるような体制作りを行う。多様なニーズに応えることで、預け先がなくて困っている親が働いている間、安心して預けられる場、子ども達が安全に過ごせる場、育って行ける場を作っていく。
- ・スタッフ研修も行い、現場での対応を学ぶ機会をもち、スタッフのスキルアップをはかる。

日時	月曜日～金曜日 9:00～20:00 長期休みは7:00から開所
場所	横浜市磯子区東町9-9 2階
主な従事者人員	5名
対象者	小学1～6年生までの放課後の保育に欠ける児童
支出額	21,856,686円

(7) その他の事業

①学習支援

- ・学びなおしが必要な青少年の学習、通信制高校のレポート指導、大学受験の勉強、大学通学支援、高校認定試験の学習など個別に対応。
- ・毎週、ぽによ塾（国語・算数・英会話・ピアノ）を開催。
- ・ぽによ塾では、スタッフが中心となりサポートする中で、青少年の研修も受け入れ、一緒にチームとしてメンバーと活動を行う。その活動の中で、誰かの役に立っているという実感を味わい、次のステップへとつないでいけるような体験や研修の場としていく。大学生ボランティアも積極的に受け入れ、学習支援の活動の充実をはかった。

日時	月曜日～金曜日 10:00～18:00
場所	K2ビル4階 他
主な従事者人員	4名
対象者	おおそ小学1～6年生までの児童、中学生・高校生・大学生など
支出額	1,921,769円